

目次

口 絵

刊行のあいさつ

凡 例

目 次

第五編 近代・現代

総 説

第一章 明治の相馬

第一節 行政

一 相馬の御一新

(一) 相馬家の明治維新

(二) 相馬中村藩の戊辰戦争

(三) 相馬中村藩の版籍奉還

二 三新法の施行

三 町村制と相馬

(一) 町村合併と相馬

(二) 新町村の運営

第二節 産業

一 製塩業・水産業

(一) 製塩業

(二) 水産業

二 農林業・蚕糸業

(一) 農林業

(二) 蚕糸業

三 商工業・銀行・交通・通信

(一) 商工業

(二) 銀行

(三) 交通・通信

四 報徳仕法のその後

(一) 興復社による北海道移住策

(二) 北海道移住の概要

(三) 改正規則と移住民規約

(四) 興復社本社の引き継ぎ

第三節 社会

一 大字の仕組みと暮らし

二 青年会・婦人会の組織化と人々のすがた

(一) 中野青年会

(二) その他の青年会と婦人会

(三) 地域に生きた人びと	137
三 伝染病の流行と公衆衛生	141
四 維新の変革と宗教	146
五 明治期の戦争と社会	165

第四節 近代教育制度の整備

一 近代教育のはじまり	174
(一) 明治維新前後から「学制」期の小学校	174
(二) 教育令・第一次小学校令下の動き	179
二 相馬郡教育の中心地	182
(一) 「教育勅語」の普及と就学・進学率の向上	182
(二) 中等教育機関の設立	189
(三) 郡立職業教育機関の設立	193
(四) 相馬郡教育会・浜三郡連合教育会の設立	194

第二章 大正～昭和前半の相馬

第一節 行政

一 大正期（明治末期以降大正期）	200
(一) 町村の概要	201
(二) 行政と財政	209
(三) 米騒動をめぐる	211
(四) 中村町の整備拡張	211

二 昭和前半（戦前・戦中）

(一) 町村の概要	216
(二) 漁業振興	218
(三) 中村町の発展と拡張	222
(四) 恐慌と相次ぐ災害	226

三 戦争の時代

(一) 戦況と戦時下の様子	238
(二) 総力戦体制	242

四 昭和前半（戦後・市制施行前）

(一) 町村の行財政	262
(二) 食糧不足と農地改革	268
(三) 「相馬市」へ	273

第二節 産業

一 漁業

(一) 町村別の特徴	276
(二) 漁船と販売・流通	278
(三) 漁業監視船「福島丸」の建造	279
(四) 水産養殖業の展開	280
(五) 伸びる水産加工業	283
(六) 漁業組合の動向	284
(七) 戦後の漁業	285

二 製塩業	286
三 農業	
(一) 大正期の稲作の動向	289
(二) 疲弊する農村（昭和前期）	290
(三) 大正期～昭和前期の畑作	294
(四) 畜産業	299
(五) 干拓事業	300
(六) 福島県農業試験場相馬地方試験地の設置	304
(七) 戦時体制下の農業	305
(八) 戦後の農業	306
四 山辺の産業	314
五 商工業	
(一) 中村町の諸会社・商業	316
(二) 金融機関の動向	318
(三) 中村町の工業	322
(四) 鉱工業	327
(五) 電気事業	328
六 交通	
(一) 鉄道	330
(二) 自動車・バス	334
七 観光	336

第三節 社会

一 地域社会と暮らし

(一) 地域のルール	339
(二) 地域の備えと災害	342
二 青年たちの活動	
(一) 程田支部青年会とそのルール	349
(二) 程田青年分団と慰安演芸会	350
(三) 中野青年団と公会堂建設	351
三 女性による団体の活動	355
四 中村町の水道布設	357
五 太平洋戦争と銃後の社会	362

第四節 戦時下教育への変転と戦後六・三・三制への再編

一 大正期における教育の拡充

(一) 小学校教育	372
(二) 大正期の中等教育機関	378
(三) 青年期教育	381
(四) 福島県薫陶園	382
二 恐慌から戦時に至る中の相馬の教育	
(一) 昭和初期の小学校教育	384
(二) 戦時下の国民学校教育	387
(三) 昭和戦時下の中等教育機関	390

(四) 青年期教育・職業教育	393
----------------	-----

(五) 昭和期の福島県薫陶園	395
----------------	-----

(六) 幼児教育	396
----------	-----

三 戦後改革期における教育の再編

(一) 戦時体制からの脱却	398
---------------	-----

(二) 新学制への移行	401
-------------	-----

(三) 新制高等学校を巡る論議	405
-----------------	-----

(四) 教育委員会の発足	407
--------------	-----

(五) 社会教育・幼児教育の再編	408
------------------	-----

第三章 現代の相馬

第一節 行政

一 横山／浜名市政期の行政

(一) 市制の発足	412
-----------	-----

(二) 人口の推移	413
-----------	-----

(三) 初期市政の混乱と財政再建	415
------------------	-----

(四) 市長選挙	420
----------	-----

(五) 行政計画	424
----------	-----

(六) 行政機構の拡充	433
-------------	-----

(七) 相馬港の建設	435
------------	-----

(八) 漁港整備	441
----------	-----

(九) 都市計画	443
----------	-----

(一〇) 水害高潮対策	446
-------------	-----

(一一) 市営住宅	448
-----------	-----

(一二) 道路整備	449
-----------	-----

(一三) 市民と行政	451
------------	-----

(一四) 相馬港開発から総合開発へ	454
-------------------	-----

(一五) 市役所の火災と庁舎建設地問題	459
---------------------	-----

二 今野市政期の行政

(一) 革新市政の誕生	463
-------------	-----

(二) 火葬場建設地紛争	466
--------------	-----

(三) 市長選挙と行政計画・機構改革	476
--------------------	-----

(四) 相馬地域総合開発の展開	482
-----------------	-----

(五) 地震津波対策	486
------------	-----

三 立谷市政の登場

(一) 財政再建と行政改革	488
---------------	-----

(二) 市町村合併への対応	490
---------------	-----

(三) 市制施行五〇周年記念事業	490
------------------	-----

第二節 産業

一 相馬市の産業構造の変容

(一) 戦後日本の産業構造	491
---------------	-----

(二) 相馬市の産業構造	492
--------------	-----

(三) 第一次産業における産業構造の推移	494
----------------------	-----

二 水の産業

(一) 漁業協同組合の変遷	497
(二) 各漁協による漁業の動向	504
(三) 製塩業	512

三 農業

(一) 農協	514
(二) 従業形態にみる相馬の農業構造	518
(三) 機械化	519
(四) 作物の様相	521
(五) 地区別の観察	526

四 商工業

(一) 地場産業	531
(二) 誘致企業	534
(三) 地元の商業・商店街	543
(四) 大型商業施設の進出	546
(五) 商店街の近代化策と大型店問題	547
(六) 商工会議所による商業近代化計画	551
(七) 相馬ブランド	552

五 観光

(一) 相馬野馬追	554
(二) 海辺のレジャー	558

第三節 現代の地域社会と社会問題

一 大字と行政

(一) 行政区としての大字	565
(二) 地域の代表者「区長」の仕事	566
(三) 戦後の公会堂建設	572

二 戦後の暮らし（生活改善運動と冠婚葬祭）

576

三 青年たちの活躍

(一) 相馬市連合青年会会報に見る青年会の活動	582
(二) 各地区青年会の活動	586

四 現代の社会問題

(一) 公害問題	596
(二) 交通安全運動	602
(三) 上水道の整備	604
(四) 生活廃棄物	606
(五) 保健・医療	609

第四節 現代の教育

一 相馬市教育行政と教職員研修の展開

(一) 市制施行後の教育行政	612
(二) 平成期の相馬市教育行政	618
(三) 教職員団体の動き	622

二 相馬市における小・中・養護学校教育の展開	
(一) 相馬市立小・中学校の拡充	629
(二) 特色ある教育活動の展開	635
三 児童養護施設・幼児教育機関による保育・子育て支援の拡充	
(一) 市立相馬愛育園	640
(二) 相馬市立幼稚園の整備・拡充	641
(三) 私立幼稚園の拡充	642
(四) 保育・子育て支援の拡充	643
四 相馬市内における高等学校・高等教育機関	
(一) 相馬高校・相馬女子高校と地域社会	645
(二) 相馬市内の高等教育・職業教育機関	647
五 社会教育から生涯学習へ	
(一) 公民館のあゆみ	649
(二) 文化施設の拡充	650
(三) 体育施設の拡充	654
第四章 近代・現代の文化	
第一節 文学	
一 短歌	658
二 俳句	664
三 詩	668
四 相馬と夏目漱石	669

五 相馬を舞台とした近代小説	671
第二節 芸術	
一 音楽	679
二 絵画	684
三 彫刻・篆刻	
(一) 佐藤玄々(朝山)	690
(二) その他の彫刻家	701
(三) 篆刻	702
四 工芸(田代窯と相馬市域の陶器)	
(一) 近世の史料から	705
(二) 明治期の中村地方の窯(『福島県之窯業』から)	708
(三) 「走駒」と田代窯	709
(四) 近代の田代窯	712
(五) 館ノ下焼の「発見」	718
(六) 今野家の系譜	720
(七) 館ノ下 その他の窯	721
(八) 中村付近の窯 その他	722
五 美術運動等	
(一) 相馬中学校「エーゼル会」から市民参加「相美会」へ	724
(二) 相馬絵画研究所	729

六 描かれた相馬

(一) 小川芋銭《細道絵日記》……………731

(二) 角田磐谷《福島八景十勝》……………732

第三節 体育

一 武道……………734

二 玉ノ井部屋相馬市後援会……………735

三 ふくしま国体ソフトボール競技会……………736

四 パークゴルフ……………738

五 松川浦大橋ふれあいマラソン……………739

第四節 学術

一 草野俊助……………741

二 吉田 巖……………742

三 岩崎敏夫……………743

四 今野源八郎……………744

五 鎌田 正……………746

第五節 郷土史研究

一 只野 清……………748

二 斎藤笹舟……………749

三 文化財保存運動……………750

四 相馬郷土研究会……………752

第六節 その他

一 磯村春子―はね駒の女性記者……………753

二 広文堂書店……………756

三 角野憲夫……………757

関係者一覧……………760